



請求異議控訴審判決・農地強制収用を許さない

12・17 東京高裁包囲デモへ

10月22日、三里塚芝山連合空港反対同盟・市東孝雄さんの農地取り上げ強制執行を阻む請求異議控訴審・第4回が東京高裁第4民事部(菅野雅之裁判長)で開かれました。菅野裁判長はこの日で結審を宣言し、判決日を12月17日と指定しました。

裁判に先立ち東京高裁を包囲するデモ行進を行い、みなさんにご協力いただいた要望書(653通)を裁判所に提出しました。

裁判では冒頭、市東さん本人が陳述を行いました(詳報2面)。祖父の代から受け継いだ農地を卑劣な手段で奪おうとする成田空港会社(NAA)を弾劾し、裁判長に向けて「小作農にも耕す権利がある。違いますか」と鋭く問いいただきました。最後に、「土は生きている。土を殺すな。コンクリートの下にするな。俺の仕事と誇りを奪わないでくれ。農業をおろそかにしてはならない。強制執行を許可しないでほしい。どんなことがあろうと、私は天神峰の畑を耕し続けます」と力強く訴えました。

さらに、農業経済学者の石原健二さん、憲法学者の内藤光博さんが市東さんの農地を奪ってはならないことを専門家の立場から裁判長に突きつけました。

顧問弁護団は全342ページに及ぶ最終弁論を陳述。NAAの主張と一審判決の誤りを完膚なきまでに徹底批判しました。



↑裁判に先立ちデモ
←要望書を提出

とりわけ、新型コロナウイルスの感染拡大という事態は世界史的な大事件であり、需要は元には戻らないこと。空港拡張の根拠・必要性はなくなったこと。必要のない農地の明け渡し請求・強制執行は権利濫用そのものであり、不許可にされるべきであることを詳述しました。

市東さんが成田空港会社(NAA)から不当な農地の明け渡しを求められてから14年。闘いはよいよ正念場です。12月17日、東京高裁にぜひ集まってください。みなさんの注目とご支援をよろしくお願いいたします。

請求異議裁判控訴審判決・東京高裁包囲デモ

12月17日(木) 午前11時半 東京・日比谷公園霞門集合 正午～デモ出発

午後2時 開廷 東京高裁102号法廷



市東孝雄さん最終陳述（要旨）

自分がなぜ訴えられているのか、今もまったくわかりません。祖父・市太郎の開墾から百年、うちは代々、地道に畑を耕してきました。空港がやってくるまで、地主との間になんの問題もなく畑をつくってきたんです。

●裁判で生活が一変

ところが、今から17年前に突然、空港会社が地主だと名乗りでました。早朝に機動隊を連れてきて、建物全部に「公示書」をはりました。畑を耕す親父に隠して空港会社は畑を買い上げ、地代は元の地主に受け取らせていたのです。その後、計画にはなかった誘導路をつくり、家と畑は空港に囲まれました。

畑を取り上げる裁判が始まり、私の生活は一変しました。空港会社の要求は私に「農業をやめろ」「農地を取りあげる」というものでした。

●小作農にも耕す権利がある

私は小作農ですが、たとえ小作農だとしても耕し続ける権利があります。違いますか？

農地法は「農地と耕作者の地位を守る」ための法律です。そもそも親父に内緒で農地を売り買いすることは違法じゃないですか！

農家を守るはずの「農地法」を盾に、農地を取りあげる不当は決して自分だけの問題ではないはずです。負けるわけにはいきません。

●デタラメな需要予測

今、成田空港はがらがらです。家のそばの誘導路を使うLCC2社が撤退しました。コロナ以前に航空需要の予測がデタラメでした。デタラメな予測による拡張計画になんの説得力もありません。

●ウソはつかない仕事と生き方

正しいものは正しい、ウソはつかない。私はそういう仕事をしてきたつもりです。親父は「空港に反対するものは正直でなければいけない」と言っていました。そうでなければ、反対運動はできないし、無農薬・有機農業もできないんです。一番大事なものは、人と人との信頼関係です。

畑見学に子どもを連れて多くの家族がやってくる。「おいしい」と言って食べてくれる。安全でおいしい野菜づくりに精魂込める。こういうつながりこそが、自分の宝です。

私の農地がつぶされたら産直も終わりです。長い時間をかけて作ってきた消費者との関係も失ってしまいます。「デタラメばかりの空港に畑を取られてたまるものか」という気持ちです。

私は裁判長に言いたい。

土は生きている。土を殺すな。

コンクリートの下にするな。

仕事と誇りを奪わないでくれ。

農業をおろそかにしてはならない。

強制執行を許可しないでほしい。

どんなことがあろうと、

私は、天神峰の畑を耕し続けます。

耕作権裁判

12月21日（月）午前9時 千葉市霞川（よしかわ）公園集合→市内デモ
午前10時30分開廷 千葉地裁

ANA赤字5100億円 国際線は成田から撤退へ

全日空（ANA）は10月27日、21年3月期の連結純損益が過去最悪の5100億円の赤字となる見通しだと発表しました。

機材費だけで月200億円もの巨額な現金が流出するほどのANAの野放図な拡大路線は右肩上がりの航空需要を前提とした航空バブルに他なりません。コロナを契機にそのバブルは崩壊。倒産の危機が迫っています。

ANAは、危機からの突破をかけ、①従業員の減給・出向や機体の削減などによるコストカット、②航空事業を縮小し、顧客データを活用した保険や旅行の新会社を立ち上げる、③傘下のLCC（格安航空会社）の活用、新規LCCを運航させるなどの構造改革を発表。

さらに、8割以上が運休・減便となっている国際線は、羽田空港を優先して再開させ、成田発着は約8割減らすとしています（国内線は全便欠航中）。米デルタ航空に続く、成田からの事実上の撤退であり空港会

社にとっては大打撃です。

23日にANAから説明を受けたという小泉成田市長は記者会見で「今の苦境を乗り越えるための羽田集中という点は理解しているが、市の税収にも影響を及ぼすと危惧している」と語りました。

しかし、今回の危機は住民の反対を無視して空港依存を深めた市政のあり方が招いたものです。

国際空港評議会（ACI）の欧州支部は10月27日、「年末までに航空需要が回復しなければ、これからの数カ月間に欧州の年間旅客数が500万人を下回る約200カ所の空港が破産に直面する」と発表しています。

新型コロナの第3波が世界を覆う中、今こそ空港廃港も含めた抜本的な見直しが必要です。第3滑走路建設、運用時間の延長、B滑走路延伸など論外です。破産のツケを住民に押しつける空港会社を許さず、機能強化の白紙撤回を今こそ勝ちとりましょう。

欧州200カ所の空港が破産に直面
空港機能強化は白紙撤回以外ない

自衛隊オスプレイ飛行を許さない！

11月6日、陸上自衛隊木更津駐屯地に暫定配備された輸送機V22 オスプレイが初の試験飛行を行いました。（写真）駐屯地近くでは配備に反対する集会が開かれ、7日には、市民団体「オスプレイいらない！習志野・八千代・船橋ネットワーク」が結成。船橋市で開かれた集会に約550人が集まり、陸上自衛隊習志野駐屯地一帯をデモ行進しました。共に反対の声を上げましょう。



地域住民の声

今回は芝山町住民から。地球環境の悪化は私たちの生活に深刻な影響をもたらしています。機能強化は温暖化をさらに進めます。新型コロナの収束も見通せない中、空港拡張の見直しこそが必要です。

◆空港拡張は地球環境の悪化・災害を招く。コロナ禍で再検討すべき。

芝山町 主婦

近年、地球温暖化に伴う異常気象によって自然災害が大型化し、大きな被害が出たり、農作物や健康にも悪影響を及ぼしています。

地球環境の悪化が懸念される中で、それほど必要とも思えない空港拡張は本当に必要でしょうか？ 地球温暖化が進みますます災害が増えるばかりではないでしょうか？

また、コロナ禍の影響でリモートによる在宅での仕事が増え、移動する機会が減っている現状では、空港の需要

は減ってくると思います。世界中でここまで深刻な状況になったコロナ禍からいつ回復するのかの見通しがつかない今、空港拡張案は再検討する必要があります。

◆国が今やるべきは新型コロナによって壊された生活の支援の方だ。

芝山町 主婦

新型コロナ感染症が再流行する懸念がぬぐえない中、私は40年ぶりに静かな日常を感じています。

企業には先行きの不安が広がり、雇用情勢が悪化、生活困窮者への支援など、今、国がやらなくてはならないことがたくさんあります。

年間発着回数50万回を前提とした空港機能強化は必要ではありません。世界で感染がおさまり、すべての生活が元のように戻ってからすべき話です。

もう一度、機能強化が必要なのか否かの原点に戻り、新型コロナの感染拡大という状況を考え、意識を変えて判断すべきではないでしょうか。誰も「新しい生活様式」を検討するべきだと思います。

天神峰カフェを再開します



前回の天神峰カフェ（2月16日）

11月23日（月・休）の正午から成田市天神峰の市東孝雄さん宅離れで天神峰カフェを開催します。新型コロナウイルスの感染拡大で今年の2月以降お休みしていましたが、感染症対策を取りながら再開することにしました。市東さんの農地をめぐる裁判の判決が迫る中、住民の方々と様々な意見交換ができればと考えています。ぜひご参加ください。